

Press Release

20070315



Survivart

<http://survivart.net>
mail:info@survivart.net

Emerging Artists Support Program 2006 展覧会企画公募 入選企画

ダブルキャスト *Double Cast*

Survivart 企画・トーキョーワンダーサイト主催

2007年3月28日(水) - 4月22日(日)

会場トーキョーワンダーサイト本郷

28 March 2007(Wed.) - 22 April 2007(Sun.)

—目次—

P01…表紙

P02…概要

P03…会場案内・作家紹介

P04 ~ P06…関連プログラム

P07…概要 (英訳バージョン)

Double Cast

Date: 2007.03.28(wed) - 04.22(sun), Venue:Tokyo Wonder Site hongo

Curated by Survivart

期間限定の放送局「Double Cast」が、トーキョーワンダーサイト本郷に出現。

本スタジオには、岩井優、田口行弘の二人のアーティストによって制作された撮影セットや事務所が設置され、ここで実際に撮影・編集された映像プログラムは、「Double Cast」特設サイト及び動画共有サイト YouTube から配信されます。本展は、Web と撮影現場、これら二つのサイトから発信することで、展覧会というものの新たな発信方法と豊かな享受方法について探る試みです。

また、毎週末にはトークイベントを行うほか、期間中は随時二人のアーティストによるパフォーマンス等を開催し、スタジオ自体が生きた交流の場となるよう広く開放します。最新のスタジオプログラムは、特設サイトにて確認することができますので、ふるってご参加・ご観覧ください。

特設サイト URL: <http://doublecast.survivart.net>

会場:トーキョーワンダーサイト本郷 3F

会期:2007年3月28日(水)～4月22日(日)

開館時間:11:00-19:00 ◎入場は閉館30分前まで

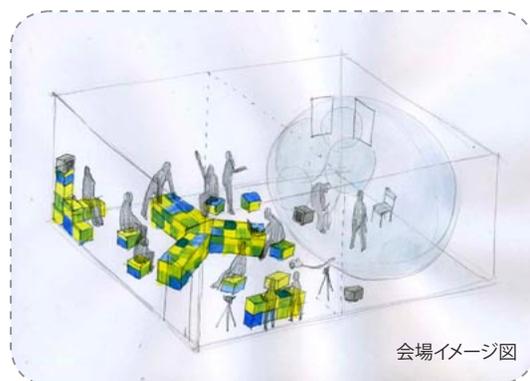
休館日:月曜日

入場料:無料(トークイベントは各回¥500 予約制)

主催:トーキョーワンダーサイト

企画・運営:Survivart (サバイバート)

協力:文京区文京清掃事務所、MUSEUM OF TRAVEL



会場イメージ図

※オープニングレセプション(参加自由・無料)

会場にて同時開催の3つの展覧会合同のレセプションとなります。

2007年3月28日(水) 19:00-21:00

メディアの方は3/22迄にファックスによるお申し込みが必要です。☎

<お問い合わせ先>

Double Cast 事務局 担当:長内(おさない/ Survivart)

Tel: 080-5644-0066 Email: dc@survivart.net

< Survivart とは >

『お金が全てじゃない』から、『お金のことを考える』

Survivart (サバイバート) は、日本の芸術・表現の場で語ることを敬遠されがちだった「お金」というキーワードに正面から取り組み、展覧会、対話空間、出版物、アーティスト支援、イベントなど、コミュニティのネットワークを重視したサービスを提供している集団です。
<http://survivart.net/>

※ Emerging Artists Support Program 2006 とは?

トーキョーワンダーサイトが主催する、若手の展覧会企画者を対象とした支援プログラム。その第一回目入選作として、Survivart の企画が選ばれました。選考委員(五十音順、敬称略):小崎哲哉『REALTOKYO』『ART iT』発行人兼編集長、住友文彦(東京都現代美術館 学芸員)、太郎千恵藏(美術家、多摩美術大学講師)、家村佳代子(トーキョーワンダーサイト プログラム・ディレクター)

<会場>

トーキョーワンダーサイト本郷

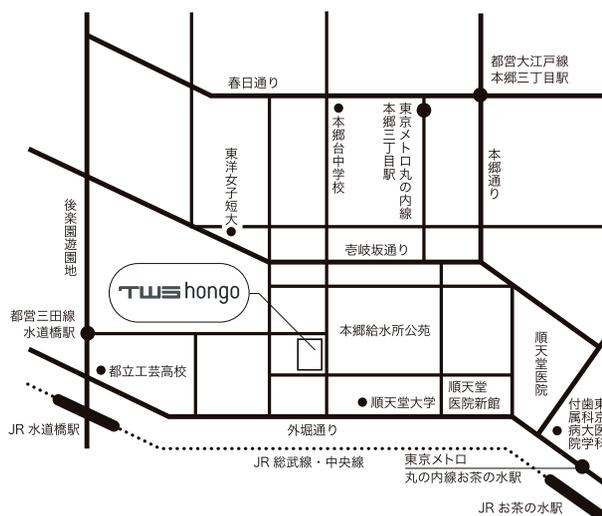
〒113-0033 東京都文京区本郷 2-4-16

TEL: 03-5689-5331 / FAX: 03-5689-7501

Email: contact@tokyo-ws.org URL: <http://www.tokyo-ws.org>

交通案内

- 御茶ノ水駅・水道橋駅 (JR 総武線)
 - 水道橋駅 (都営地下鉄三田線)
 - 御茶ノ水駅・本郷三丁目駅 (東京メトロ丸の内線)
 - 本郷三丁目駅 (都営地下鉄大江戸線) 各駅よりそれぞれ7分
- *駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。



<参加作家紹介>

○岩井優 / Masaru Iwai



1975 年京都生まれ。東京芸術大学美術科博士課程在籍。

彼の作品は、都市の中に存在する身近な事物をモチーフとし、それらの「機能性」に注目してユニークな解釈を付与し、関わりがないと思われていた事物との間を繋ぐことで、コミュニケーションの可能性を生み出していきます。——ホームレスのブルーシートテントとラブホテルを組み合わせる/資源ゴミの回収コンテナを大量に繋げてパーティーを行なう/車を毛糸のニットで改造する。作品は観客に使用・参加を促し、体験することで記憶を定着させていきます。それらの作品によって我々のもつ日常的な物に対する眼差しは、アクティブな使用法へと変換されていきます。

今回、岩井はトーキョーワンダーサイト本郷内に多くの方がアクセス可能な《ミーティングスペース》を設置し、展示空間としてのホワイトキューブから、他者の意見に具体的に触れることができるパブリックスペースへと変化させます。その様子は日々撮影・編集され、Web 上に公開されていきます。インスタレーションと映像との組み合わせは、これまで展開されてきたものに対して次の段階を示唆するものとなっています。 <http://masaruiwai.exblog.jp/>

○田口行弘 / Yukihiro Taguchi



1980 年大阪生まれ。東京芸術大学美術学部絵画科卒。

2005 年よりベルリン在住。彼は身体性を強調したパフォーマンス、インスタレーションを主にドイツにおいて展開しています。ビニール袋をかぶり道行く人、公園で休んでいる人たちにホースで呼吸を送ってもらう《Gift (英語では贈り物ドイツ語では毒)》旧銀行での展示では、床のカーペットを剥がし、持ち上げた《Auf》など。彼の作品によって、息をすることやカーペットといった普段気にもとめないことが異様な出来事として我々の前に現れます。

今回、田口は《Gift》を発展させ、撮影セットと組み合わせた大きなビニール袋を出現させます。膨張・収縮によって変容するインスタレーションは、期間中、実際に鑑賞者も袋の中へ入りその中で行われる様々なイベントやレクリエーションを通して、その空間を体験することができます。その体験は、私達がなにげなく接している物事を浮かび上げらせ、再考を促します。 <http://spazieren.exblog.jp/>

関連プログラム

<<トークイベント／Seminar >>

期間中の週末を中心に、会場ではトークイベントやパーティーが開催されます。ぜひご参加下さい。

*各イベント開催時は、30分前より準備をしますのでご了承下さい。

*トーク開催中は作品鑑賞のみの入場を制限することがございます。ご了承下さい。

各回 500 円、定員 30 名、予約制

参加方法：メール件名「トーク予約」とし、本文に参加希望日・氏名・参加人数を明記して dc@survivart.net 宛に送信して下さい。

Vol. 1 「ネットワークから考える」

3月31日(土) 14:30 ~ 16:30

ゲスト：椿昇 (アーティスト) +ドミニク・チェン (日本学術振興会外国人特別研究員 [東京大学])

本展で利用する動画サイト「YouTube」では、アニメやドラマなどの著作権問題が絶えず話題となっています。現代美術の実践やインターネットのプロジェクトなどで活躍中の二人をゲストに招き、ネットワークから見えてくる問題や可能性について議論します。

○椿昇 / Noboru Tsubaki (アーティスト)

1953年京都生まれ。京都市立芸術大学美術専攻科西洋画科修了。2005年「リトルボーイ」展(ニューヨーク)パレスチナアルカサバシアターの美術を担当、同時にウェブを使った参加型プロジェクトを展開。2006年にMITのレジデンスなど世界3ヶ所でワークショップ。2003年、水戸芸術館で戦争と人間の関係を問う「国連少年」展を開催。2002年、教育用ロボット「ニューロキューブ」をリリース。2001年、「横浜トリエンナーレ2001」で室井尚と巨大ハッタを展示。複数の大学を繋ぎ、学生参加の多様なプロジェクト型アートを開発している。京都造形芸術大学空間演出デザイン学科教授。

○ドミニク・チェン / Dominick Chen (日本学術振興会外国人特別研究員 [東京大学])

1981年、東京生まれ。中国語が喋れない。芸術道場4段。NTT InterCommunication Center [ICC] アーカイブ研究員(2003.11~)、東京大学大学院学際情報学府博士課程(2006.4~)、国際大学 GLOCOM リサーチアソシエイト(2005.1~)、クリエイティブ・コモンズ・ジャパン事務局(2006.3~)。2007年 Ars Electronica Digital Community 部門の International Advisory Board を務める。InterCommunication、美術手帖、ユリイカ、10+1、ARTiT、Tokyo Art Beat Review など多様な論考を執筆するかわら、ICCのオープン映像アーカイブ「HIVE」を構築、オープン・エンデッドな表現プラットフォーム「DIVVY/dual」をアーティスト/エンジニアと共に主催、また現在はクワクポリョウタ開発の電子回路キット「Pri/Pro」の共有プラットフォームを構築中。2007年5月にはAIT主催 Making Art Different コースの特別講義を担当予定。

Vol. 2 「TOKYO から考える」

4月8日(日) 17:00 ~ 19:00 ※出演者は変更になる場合がございます。

ゲスト：ウレシカ (PingMag 編集長) +オリビエ・テロー、藤高晃右、ポール・バロン (共に Tokyo Art Beat)

+マイク・クベック (SuperDeluxe)

バイリンガルな視点で、TOKYO のカルチャーを発信している人々をゲストに迎え、TOKYO のポテンシャルと未来について考えます (日英逐次通訳あり)。終演後、田口行弘出国パーティーあり (参加自由・無料)。

○ PingMag

東京をベースにするオンライン・デザイン・マガジン。「デザイン」という枠の中で、世界のトップで活躍するデザイナーから近所の商店のおもちゃに至るまで、様々なアイデアやインスピレーションについて、可能な限り幅広い話題をバイリンガルで提供している。http://www.pingmag.jp/

○ Tokyo Art Beat

無料であること / バイリンガルであること / 独立した非営利団体であり、中立であること / 国内外に東京のイベント情報を発信することで、アート・デザインを通じた文化交流を促進すること / 誰もがアート・デザインの魅力を発見 / 再発見できるきっかけであること / をミッションに東京中にある 600 以上のアートスペースで開催されている全てのイベント情報を網羅する唯一のサイト。http://www.tokyoartbeat.com/

○ SuperDeluxe

Thinking and Drinking をテーマに、2002年、六本木にオープンしたスペース。毎月様々なジャンルのイベント等が行われている。中でも、定期イベント「ペチャクチャないと (http://www.pecha-kucha.org/)」は、20枚の画像×20秒で来場者にプレゼンテーションを行うイベントで、東京のクリエイティブな交流の場として有名。現在は、世界各地で同じイベントフォーマットのものが行われている。

Vol. 3 「広告から考える」

4月14日(土) 17:00 ~ 19:00

ゲスト: 池田正昭 (コピーライター/エディター) + マエキタミヤコ (コピーライター/クリエイティブ・ディレクター)

メディアを使って消費者の欲求を駆り立てる広告。広告の効能と犠牲になってしまうものとは何なのでしょう。雑誌の創刊から環境広告まで幅広く活躍中の二人に、広告の表と裏について伺い、欲望することについて、あらためて考えます。

○池田正昭 / Masaaki Ikeda (コピーライター/エディター)

1961年生まれ。広告代理店のHにてコピーライターを10年経験した後、同社が発行する雑誌『広告』の編集者に。2001年、編集長になった同誌のコンテンツの中から地域通貨「アースデ イマネー」や、国産間伐材割箸の普及を図る「アドバシ」「春の小川」再生などの活動を開始。2002年の「アースデイマネー・アソシエーション (edma)」設立をはじめ、その後5つのNPOを立ち上げる。また、NPO的な社会ムーブメントとして「打ち水大作戦」を立ち上げる。<http://www.earthdaymoney.org/>

○マエキタミヤコ / Miyako Maekita (コピーライター/クリエイティブ・ディレクター)

1963年東京生まれ。コピーライター/クリエイティブディレクターとして97年よりNGOの広告に取り組み、02年に広告メディアクリエイティブ [サステナ] を設立。雑誌『ecocolo(エココロ)』編集主幹として日々世の中をエコシフトさせるために奔走中。「100万人のキャンドルナイト」呼びかけ人代表・幹事、「ほっとけない世界のまずしさ」キャンペーンアドバイザー。上智大学、立教大学非常勤講師。最近「フードマイレージ」キャンペーンや「リスペクトスリーアル」プロジェクトを手掛けている。

<http://www.sustena.org/>

Vol. 4 「放送から考える」

4月21日(土) 13:00 ~ 15:00

ゲスト: 神保哲生 (ビデオニュース・ドットコム代表) + 中野真紀子 (翻訳家)

動画サイト「YouTube」の認知度が50%を超えた昨今、個人がメディアを駆使し情報の受け手から発信者となり、マスメディアの神話も崩れつつあるこの時代に、独自メディアの重要性や可能性について話し合います。

○神保哲生 / Tetsuo Jimbo (ビデオニュース・ドットコム代表)

1961年東京生まれ。15歳で渡米。コロンビア大学ジャーナリズム大学院修士課程修了。クリスチャンサイエンス・モニター紙、AP通信など米国の報道機関の記者を経て1994年独立。同年、ペンカメラに持ち替え、記者自らが撮影から取材・編集にいたるテレビ制作の全工程を一人で行うビデオジャーナリストとしての活動に入る。以来、テレビ朝日『ニュースステーション』TBS『筑紫哲也ニュース23』NHK『ETV』米ABC『ナイトライン』PBS『ニューズアワー』など内外の放送局に向けて100本を超えるレポートやドキュメンタリーを提供。1996年4月日本ビデオニュース(株)を設立し、代表取締役役に就任。2000年1月、日本初のニュース専門インターネット放送局『ビデオニュース・ドットコム (<http://www.videonews.com/>)』を立ち上げ現在に至る。2005年4月より、立命館大学産業社会学部教授を兼任。著書に『地雷レポート』(築地書館)『ツバル』(春秋社)『ビデオジャーナリズムーカメラを持って世界に飛びだそう』(明石書店)他多数。<http://www.jimbo.tv>

○中野真紀子 / Makiko Nakano (翻訳家)

主な訳書にエドワード・サイード『遠い場所の記憶』戦争とプロパガンダ(みすず書房)など。チョムスキーとエドワード・ハーマンによるメディア論『マニフアクチャリング・コンセント〜マスメディアの政治経済学』(トランスビュー)を企画から4年がかりで翻訳刊行したばかり。同名のタイトルを冠したドキュメンタリー映画(邦題『チョムスキーとメディア』)の日本語字幕も担当した。現在は、ニューヨークの独立系メディア「Democracy Now!」日本版立ち上げに奔走中。<http://www.canaanite.net/>

Vol. 5 「アートから考える」

4月22日(日) 16:00 ~ 18:00

ゲスト: 小崎哲哉 『REALTOKYO』『ART iT』発行人兼編集長 + 住友文彦 (東京都現代美術館 学芸員) + 福住廉 (現代美術評論家/文化研究)

ネットワーク社会へと急速に移行しつつある現在、アートの価値はどのように位置づけられるのでしょうか。ゼロ年代におけるアーティストたちの試みやキュレーションという行為について複数の視座から批評的に議論します。終演後、クローゼングパーティーあり(参加自由・無料)。

○小崎哲哉 / Tetsuya Ozaki 『REALTOKYO』『ART iT』発行人兼編集長)

1955年東京生まれ。さまざまな出版物の編集に携わった後、85年、新潮社に入社。89年に「トランスカルチャーマガジン」『03 TOKYO Calling』

を立ち上げ副編集長に就任するが創刊1年後に退社。94年に(有)小崎哲哉事務所を設立し、CD-ROM『デジタル歌舞伎エンサイクロペディア』写真集『百年の愚行』などを企画制作する。96年「インターネットワールドエキスポ」日本テーマ館『Sensorium』のエディトリアルディレクターを担当。2000年にバイリンガルのカルチャーウェブジン『REALTOKYO』(www.realtokyo.co.jp)を、03年には同じくバイリンガルの季刊アート雑誌『ART iT』(www.art-it.jp)を創刊する。J-WAVE『RENDEZ-VOUS』に出演中(毎週水曜)。

○住友友彦／Fumihiko Sumitomo (東京都現代美術館 学芸員)

1971年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科表象文化論コース修了。金沢21世紀美術館建設事務局の学芸員の後、NTT InterCommunication Center [ICC] 学芸員として多数の展覧会を企画、2006年6月より現職。共著に「身体の贈与」『表象のディスクール6 創造』(小林康夫・松浦寿輝編、東京大学出版会、2000年)、『実験工房』とテクノロジー』『エクス・ムジカ』第2号(ミュージックスケープ、2000年)、「映像の中へ」(共著『21世紀の出会い—共鳴、ここから』金沢21世紀美術館、淡交社、2004年)などがあり、各種雑誌に執筆、および大学やシンポジウムでの発表をおこなう。NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウの副ディレクターも務める。

○福住廉／Ren Fukuzumi (現代美術評論家／文化研究)

1975年生まれ。九州大学大学院比較社会文化学府博士課程単位取得退学。「alternative realities—ストリート・アマチュア・クリティカル」で、美術出版社主催第12回芸術評論で佳作受賞。「artscape」[美術手帖]などで展評や記事を執筆する一方、連続企画展のキュレーションも手掛ける。

<<パーティー／Party >>

■オープニングレセプション

会場にて同時開催の3つの展覧会合同のレセプションとなります。

2007年3月28日(水) 19:00-21:00 (参加自由・無料)

■田口行弘出国パーティー 2007年4月8日(日) 19:00-21:00 (参加自由・無料)

■クロージングパーティー 2007年4月22日(日) 18:00-20:00 (参加自由・無料)

<<レンタル・ミーティング・スペース／Meeting Space >>

スタジオの一角に設けられた、ミーティングスペースを、東京を拠点に活動するアート関連団体および個人に開放します。ただし、使用中の様子をスタッフが撮影させていただき、その映像をYouTube上にて公開します。この条件でもOK!という、場所に困っているみなさん、ぜひこの機会にご利用下さい。なお、会場使用の注意事項につきましては、予約後にスタッフから詳細をご連絡差し上げます。

使用可能日時: トークイベント・パーティーの行われていない開館時間内(午前11時~午後7時) ならいつでも(1時間単位~)。

会場使用料金: 無料

使用目的: 打合せ、歌や踊りの練習などで自由にお使い下さい。

レンタル方法: 特設サイトにて空き状況をチェック→空いている日時を見つけ申込みフォーム(3/16より受付開始)を送信。

→ Double Cast 事務局より、レンタル可能かどうかのご連絡と、使用上の注意事項連絡。→当日ご来場

<<コラボ企画／Collaborate Event >>

4月7日(土) 16:00-19:00

CAMP-6 [本郷キャンプ] Double Cast (ダブルキャスト)

ゲスト: 岩井優+田口行弘

参加費: 500円(つまみ+1ドリンク付) 定員30名、予約制

キャンプはプレゼンテーションとディスカッションとパーティーからなるイベントです。場所を変えて、毎月開催しています。若手の研究者やクリエイターをゲストに招き、ゲストが現在取り組んでいる研究や活動についてのプレゼンテーションを行い、参加者と共にディスカッションをしながら、現在について考えます。

企画: MUSEUM OF TRAVEL

EXHIBITION: Double Cast

Venue: Tokyo Wonder Site hongo

Date: March 28, 2007 (Wed.) to April 22, 2007 (Sun.)

Time: 11:00-19:00 (last entry 18:30)

Admission: Free

Artist: Masaru Iwai (Born in 1975), Yukihiro Taguchi (Born in 1980)

Organize: Tokyo Wonder Site

Production/ Curation: Survivart

Cooperation: Bunkyo City, Bunkyo waste collection office., MUSEUM OF TRAVEL

"Doble Cast" Broadcasting station will be open for a limited time at Tokyo Wonder Site Hongo.

The filming studio and the administration office that are created by two artists, Masaru Iwai and Yukihiro Taguchi, will be installed at the station. The actual visual programs will be filmed and edited in the studio, and they will be distributed on the "Double Cast" site and YouTube site.

This exhibition attempt to explore the new ways of delivering exhibition and various ways of viewing it, through distributing the exhibition from two sites, on the web and at the filming site.

During the exhibition period, the station will be an open space for a lively communication. The talk events will be held on every weekend at the site, and two artists will show the performance as needed.

The latest program is available to view on: <http://doublecast.survivart.net>

So please come and join us at the station.

Related events: TALK EVENT

Admission fee: 500yen

Booking: <mailto:dc@survivart.net>

March 31, 2007 (Sat.) 14:30-16:30, vol. 1 [Network]

Guest: Noboru Tsubaki (Artist) + Dominick Chen (Researcher)

April 7, 2007 (Sat.) 16:00-19:00, MOT CAMP-6 [Hongo]

Guest: Masaru Iwai (Artist) + Yukihiro Taguchi (Artist)

Organize: MUSEUM OF TRAVEL

April 8, 2007 (Sun.) 17:00-19:00, vol. 2 [Tokyo] *Scheduled

Guest: Uleshka (PingMag / Editor in Chief) + Olivier Thereaux, Kosuke Fujitaka, Paul Baron (Tokyo Art Beat / Co-founder) + Mike Kubeck (SuperDeluxe / Executive Producer)

Inviting the guests who deliver Tokyo culture from bilingual view, think about the potential and the future the city Tokyo holds. (With Japanese/English interpreter)

Yukihiro Taguchi's farewell party will be hosted after the talk. (Free of charge)

April 14, 2007 (Sat.) 17:00-19:00, vol. 3 [Advertisement]

Guest: Masaaki Ikeda (Copy writer / Editor) + Miyako Maekita (Copy writer/ Creative Director)

April 21, 2007 (Sat.) 13:00-15:00, vol. 4 [Broadcast]

Guest: Tetsuo Jinbo (Journalist) + Makiko Nakano (Translator)

April 22, 2007 (Sun.) 16:00-18:00, vol. 5 [Art]

Guest: Tetsuya Ozaki (REALTOKYO, ART iT / Editor in Chief) + Fumihiko Sumitomo (Curator) + Ren Fukuzumi (Critic)

Related events: PARTY

March 28, 2007 (Wed.) 19:00-21:00, Opening Reception (Free)

April 8, 2007 (Sun.) 19:00-21:00, Yukihiro Taguchi Farewell Party (Free)

April 22, 2007 (Sun.) 18:00-20:00, Closing Party (Free)

Contact: Double Cast Office / Cell Phone: 080-5644-0066

Mail: dc@survivart.net URL: <http://doublecast.survivart.net/>